

主な出来事

【内政】

- 11月11日、アンゴラ独立50周年記念式典が開催された。同式典には国家元首を含む計45の各国使節・外交団、アンゴラ全州からの代表団及び計約1万人の市民代表団が参加したとされる。
- 11月11日、ロウレンソ大統領は、アダオン・アルメイダ大統領府文官長を解任し、国民議会議長に任命した。
- 11月30日、最大野党UNITAは第14回通常党大会における党首選で、現職のアダルベルト・コスタ・ジュニオール氏を圧倒的多数で再任した。

【外交】

- 11月15日、ロウレンソ大統領は第9回大湖地域国際会議(CIRGL)定例サミットにて、CIRGL議長職をフェリクス・チセケディ・コンゴ(民)大統領に引き継いだ。
- 11月22日、ロウレンソ大統領は、AU議長として、南アフリカ共和国にて開催されたG20に出席。演説にて、アフリカ大陸自由貿易圏の世界貿易への貢献性、資金調達、債務問題等を訴えた。
- 11月24-25日、ルアンダで第7回EU-AUサミットが開催された。ロウレンソ大統領は、EUとAUは、双方の強みを相互補完的に活用することで、相互利益に基づく持続的なパートナーシップを構築しようとした旨の演説を行った。

【日アンゴラ関係】

- 11月9-12日、大西洋平外務大臣政務官は、アンゴラを訪問。10日にロウレンソ大統領と会談を実施し、高市総理の親書を手交した。11日にはアンゴラ独立50周年記念式典に出席した。

【経済】

- アンゴラ政府は、2025年の財政赤字の見通しをGDP比1.7%から3.3%に上方修正した。
- 国家統計局(INE)によると、10月のインフレ率(前年同月比)は17.43%。
- 11月19-21日、クリスタリナ・ゲオルギエバ国際通貨基金(IMF)専務理事はアンゴラを訪問。ロウレンソ大統領と会談を実施し、アンゴラが2017年以降実施してきた改革を、「革新的」と評価した。

* 本月報は当地主要紙Jornal de Angola紙を中心に、月末現在の報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです。

11月3日に開催された司法最高評議会第11回定例会議で承認された。

内政

1. 最高裁判所長の就任

11月5日、ロウレンソ大統領は、ノベルト・ジョアン判事を最高裁判所長に任命した。裁判所長には3人が立候補し、10月31日に選挙が実施され、

2. アンゴラ独立50周年記念式典の開催

11月11日、アンゴラ独立50周年記念式典が開催された。アダオン・アルメイダ大統領府文官長の

会見によれば、同式典には国家元首を含む計 45 の使節団・外交団、アンゴラ全州からの代表団及び計約 1 万人の市民代表団が参加した。

3. 新国会議長の就任

11 月 11 日、ロウレンソ大統領は、アダオン・アルメイダ大統領府文官長を解任し、国民議会議長にと任命した。大統領府文官長には新たに、ディオニジオ・マヌエル・ダ・フォンセカ前総務大臣が任命された。

4. ドス・サントス政権時の汚職事件に対する最高裁判決

11 月 17 日、最高裁判所は「コペリパ」将軍及び「ディノ」将軍(両人は、ドス・サントス大統領時代にアンゴラと中国の融資協定を利用した詐欺を企て、アンゴラ政府に数百万米ドルの損害を与えた疑いがある)に判決を下した。コペリパ将軍は、無罪判決を受け、ディノ将軍は 5 年 6 ヶ月の懲役刑を言い渡された。ディノ将軍の弁護人は、上訴を申し立てた。有罪判決を受けた者は、上訴の決定が出るまで出国が禁じられ、パスポートが押収される。

5. PRA-JA 党首とロウレンソ大統領の会談

11 月 28 日、アベル・エパランガ・シブクブク PRA-JA 党首は、ロウレンソ大統領と会談を実施。同政党が展開してきた活動の概要及び国の将来像について説明した。同会談は PRA-JA 党の合法化及び結党大会の実施を機に実現したもの。

6. UNITA 党首選の実施

11 月 30 日、最大野党 UNITA は第 14 回通常党大会にて党首選を実施。現職のアダルベルト・コスタ・ジュニオール氏が得票数 1,100 票で対抗馬であったラファエル・マサンガ・サビンビ氏(得票数 110 票)を破り、党首として 4 年の任期に再任された。ジュニオール氏は、2033 年の党首選以降は、任期を 5 年 3 期までと変更する見通しを示した。

外交

1. 独大統領のアンゴラ訪問

11 月 5-7 日、シュタインマイヤー独大統領がアンゴラを公式訪問。ロウレンソ大統領との首脳会談を実施した他、航空及び農業分野における法的文書の署名に立ち会った。会談後の記者の質問に対し同大統領は、アンゴラが独による技術者育成協力優先国リストに入っていないことについて、政府内で再考すると述べた。

2. 印大統領のアンゴラ訪問

11 月 8-12 日、ドローパディー・ムルム印大統領は、アンゴラ独立 50 周年記念式典への参加を機にアンゴラを公式訪問。8 日、ロウレンソ大統領と会談した後、演説にて、製油及び農業分野への投資拡大への関心を示すとともに、アンゴラと印の協力関係の進展を強調した。

3. 独立記念式典への大西外務大臣政務官の出席

11 月 9-12 日、大西洋平外務大臣政務官は、アンゴラを訪問。10 日にロウレンソ大統領を表敬し、高市総理の親書を手交した。11 日にはアンゴラ独立 50 周年記念式典及び午餐会に出席し、テテ・アントニオ外務大臣をはじめとしたアンゴラ政府要人と交流した。

4. 大湖地域国際会議議長職の引き継ぎ

11 月 15 日、ロウレンソ大統領はコンゴ(民)で行われた第 9 回大湖地域国際会議(CIRGL)定例サミットにて、CIRGL 議長職をフェリクス・チセケディ・コンゴ(民)大統領に引き継いだ。任期終了演説にて、ロウレンソ大統領は、大湖地域情勢によって多くの難民や国内避難民が生まれていることに懸念を示すとともに、鉱物の違法取引と闘うための天然資源ガバナンス改善等、協調的な取り組みが必要である旨強調した。

5. ロウレンソ大統領の G20 への出席

11 月 22 日、ロウレンソ大統領は AU 議長として南アフリカ共和国にて開催された G20 に出席。演説にて、アフリカ大陸自由貿易圏の世界貿易への貢献性を訴えた。また、アフリカの開発に向けた資金調達問題に関し、G20 による中期的メカニズムとして提案されている G20-アフリカ・エンゲージメント・フレームワークを高く評価した。他方で、高金利と持続不可能な債務返済コストを伴う債務問題にも言及した。

6. EU-AU サミットの開催

11 月 24-25 日、ルアンダにて第 7 回 EU-AU サミットが開催された。ロウレンソ大統領は、開幕式にて演説を行い、欧州連合 (EU) とアフリカ連合 (AU) は、双方の強み (欧州の技術・ノウハウ、アフリカの資源・若年人口・土地・エネルギー潜在力) を相互補完的に活用することで、移民の流出や援助・債務免除依存から脱却し、相互利益に基づく持続的なパートナーシップを構築しうると強調した。

経済

1. シェル石油会社のアンゴラ復帰

11 月 3 日、アンゴラ国家石油・ガス・バイオ燃料庁 (ANPG) は、シェル石油会社、エキノール社及びソナンゴル探査・生産からなるコンソーシアムは、19、34、35 及び 14 鉱区の大深水ブロックの探査を目的としたビジネス合意に署名。シェル石油会社のアンゴラ石油業界への復帰は 20 年ぶりのこと。

2. 経済特区において医薬品等の生産が来年開始

経済特区 (ZEE) 管理会社のマヌエル・ペドロ社長は、医薬品、点滴、注射器、医療用ガス等、医療用消耗品を生産する工場が、2026 年第 1 四半期から生産を開始する予定と発表。ZEE では、医療業界に関連する 12 のインフラが建設中であり、投資額は 3.5~4 億米ドルに達する。

3. 2025 年における財政赤字の見通し

アンゴラ政府は、2025 年の財政赤字の見通しを GDP 比 1.7% から 3.3% に上方修正した。同予測が確定すれば、2017 年以来最大の赤字となる。

政府は 2025 年の赤字悪化について、「当初の見積もりと比較して債務利息支出が増加したことのみによる」と説明し、「燃料補助金の抑制的な改革」も赤字悪化の一因となったことを認めている。

4. 10 月のインフレ率

国家統計局 (INE) によると、10 月のインフレ率 (前年同月比) は 17.43%。

5. ゲオルギエバ国際通貨基金専務理事のアンゴラ訪問

11 月 19-21 日、クリスタリナ・ゲオルギエバ国際通貨基金 (IMF) 専務理事はアンゴラを訪問。20 日にロウレンソ大統領と会談を実施し、アンゴラが 2017 年以降実施してきた「革新的改革」を高く評価し、同国が負の経済成長から正の成長へと転換したことを大きな成果として祝意を表した。

6. EU-AU ビジネスフォーラムの開催

11 月 24-25 日、アンゴラ民間投資・輸出促進庁 (AIPEX) は EU-AU ビジネスフォーラムを開催。参加者は約 600 人であった。実際に同フォーラムに参加したアンゴラ・ノルウェー商工会議所は、同商工会議所と協力して資金調達を行うキャピタル・パートナー社と合意に達し、ノルウェーは資金調達を求める起業家に融資を提供しており、提供可能額は計 40 億米ドルに上ると発表した。

7. アンゴラ初の非随伴ガス処理工場の開所

11 月 27 日、ロウレンソ大統領は、ザイレ州ソヨ市に建設されたアンゴラ初の非随伴ガス処理工場の落成式に参加。アドリアーノ・モンジーニ Azul Energy 最高経営責任者によれば、同工場の処理能力は 4 億立方フィート/日であり、余剰分はアン

ゴラ LNG に供給される。ディアマンティーノ・アゼベ
ド鉱物・石油・ガス大臣は、予定より6ヶ月早く事業
が実現したことに大きな満足を表明した。

(了)